

リン資源リサイクル推進協議会 平成 21 年度事業報告

リンは、植物や動物の生体を構成する主要な元素であるとともに、生命活動の維持に必要なエネルギーの獲得に関する重要な機能を担っているなど、欠くことのできない必須元素であり、化学肥料、工業製品、食品添加物等に、大量にかつ幅広く利用されている。

一方、原料となるリン鉱石は限られた国に偏在しており、このままリンの需要量が増加傾向で推移すれば、今世紀の後半には経済的に採掘可能なリン鉱石が枯渇するというようなシナリオも発表されている。また、近年の世界的な食料需要の増加やバイオ燃料生産等によるリン酸質肥料の需要増大を一因とするリン鉱石価格の急騰等、国内で消費するリンの全量を海外からの輸入に頼っているわが国においては、資源の安定供給面からも不安材料となっている。

このような状況に対処するため、わが国は国内で使用したリンの回収・再利用や、未利用リン資源の利用技術を開発する必要に迫られている。

リン資源リサイクル推進協議会は、このような背景のもと、都市下水、含リン廃棄物、製鋼スラグ等の未利用リン資源からのリン回収技術や農業及び工業分野における省リン技術の開発促進、工業用リン酸や黄リン製造技術の革新等の技術の検討を行い、リン資源の回収とリサイクルに関する事業化の促進を行うとともに、リンの回収と再利用を円滑に進めるための事業者間連携や再生リンの利用を促進するための施策の提言等について、産学官の幅広い関係者が一体となって、行政の縦割りや民間企業間の壁を越えたオールジャパンのレベルで戦略的かつ総合的な検討を行い、もってリン資源に関する持続可能な循環型社会の構築と地球環境保全に寄与することを目的として、平成 20 年 12 月 18 日に設立した。

平成 20 年度は、協議会の設立（設立総会及び記念講演会の開催）、NEDO 等関係機関との情報交換や連携、ホームページの開設とメールニュースの配信による情報の共有、会員等への支援業務等の事業活動を行うとともに、リン資源リサイクルの実現に向けた課題や方策等の検討を行った。

平成 21 年度は、リン資源リサイクルの実現に向けて、主として関係事業者間のマッチングや回収から利用までのリン資源リサイクルの実証等に向けた取り組みを推進するため、回収技術、利用技術双方の立場からの情報提供と意見交換を行うシンポジウムの開催、委員会設置の検討等を行った。

具体的には、「技術調査事業」、「普及啓発事業」、「業務支援事業」の各事業を実施した。

平成 21 年度事業の実施概要は、以下のとおりである。

1. 会員の状況

平成 21 年度末における会員数は、次のとおりである。

会員区分	平成 20 年 12 月 18 日現在 (設立総会)	平成 21 年 3 月 31 日現在 (年度末)	平成 22 年 3 月 31 日現在 (年度末)	増減 (前年度比)
個人会員	36	46	61	15 (増 22 減 7)
団体・法人会員	41	47	64	17 (増 17 減 0)
合計	77	93	125	32 (増 39 減 7)

2. 会務の運営

総会及び幹事会等の開催状況は、次のとおりである。

(1) 総会 (1回開催)

1) 第2回総会

開催日：平成21年7月30日(木) (第1回シンポジウムと合わせて開催)

場 所：東京ビッグサイト 会議棟 (東京都江東区)

出席者：関係省庁来賓、会員、取材

合計68名 (来賓3名、会員64名 (事務局含む)、取材1名 (冒頭のみ))

内 容：平成20年度事業報告及び決算、平成21年度事業計画及び予算、規約の変更及び委員会等に係る旅費規定規約の変更

(2) 幹事会 (2回開催)

1) 第2回幹事会 (平成21年度第1回)

開催日：平成21年5月22日(金)

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室 (東京都中央区)

出席者：役員、事務局、オブザーバー (関係省庁)

合計20名 (本人7名、委任3名、代理2名、オブザーバー4名、随員1名、事務局3名)

内 容：総会議案 (平成20年度事業報告及び決算、平成21年度事業計画及び予算、規約の変更及び委員会等に係る旅費規定)、会員支援業務、シンポジウムの開催、その他

2) 第3回幹事会 (平成21年度第2回)

開催日：平成21年10月1日(木)

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室 (東京都中央区)

出席者：役員、事務局、オブザーバー (関係省庁)

合計17名 (本人7名、委任3名、代理2名、オブザーバー4名、事務局1名)

内 容：第2回リン資源リサイクルシンポジウム、リン資源リサイクル事例視察、委員会設置、その他

(3) 企画委員会 (3回開催)

1) 第1回企画委員会 (平成21年度第1回)

開催日：平成21年4月21日(火)

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室 (東京都中央区)

出席者：委員4名、事務局1名、合計5名

内 容：平成20年度事業報告及び決算、平成21年度事業計画及び予算、規約の変更及び旅費規程、会員支援業務、その他

2) 第2回企画委員会 (平成21年度第2回)

開催日：平成21年7月29日(水)

場 所：社団法人日本有機資源協会 会議室 (東京都中央区)

出席者：委員3名、事務局4名、合計7名

内 容：第2回総会、第1回リン資源リサイクルシンポジウム、その他

3) 第3回企画委員会（平成21年度第3回）

開催日：平成22年3月2日（火）

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室（東京都中央区）

出席者：委員4名、事務局2名、合計6名

内 容：平成22年度事業計画及び予算、シンポジウム、事例視察、その他

（4）監査会

1) 平成20年度事業監査

開催日：平成21年6月12日（金）

場 所：社団法人日本有機資源協会 会議室（東京都中央区）

出席者：監事2名、事務局2名、合計4名

内 容：平成20年度事業監査

3. 事業活動

（1）技術調査事業

本事業は、リン資源リサイクルに関する技術や関係機関の活動状況等の情報収集及び関係機関との情報交換等による連携活動により、リン資源リサイクルに関する調査・検討を行うものであり、平成21年度は主に以下の事業を実施した。

1) Dr. David A. Vaccari との意見交換会

開催日：平成21年11月19日（木）

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室（東京都中央区）

出席者：Dr. David A. Vaccari、関係省庁5名、役員3名、委員1名、事務局1名
合計11名

内 容：国内外におけるリン資源リサイクルの取り組みに関する意見交換

2) 第2回 リン資源リサイクルシンポジウムに係る打合せ

開催日：平成21年11月20日（金）

場 所：星陵会館 会議室（東京都千代田区永田町2-16-2）

出席者：Dr. David A. Vaccari、講師4名、主催者1名、役員7名、事務局2名
合計15名

内 容：第2回 リン資源リサイクルシンポジウムの進行及び総合討論について、国内外におけるリン資源リサイクルの取り組みに関する意見交換

3) 書籍「リン資源の回収と有効利用」への執筆協力

時 期：平成21年6月～11月

協力者：会員、事務局

内 容：国内外におけるリン資源リサイクルの取り組みに関する意見交換

4) 下水道におけるリン資源化検討会との連携

国土交通省が設置している「下水道におけるリン資源化検討会」に参加し、情報収集を行うとともに、必要に応じて意見交換を行った。

①第1回 下水道におけるリン資源化検討会の傍聴

開催日：平成21年11月4日（水）

場 所：（財）下水道新技術推進機構 会議室（東京都新宿区）

出席者：会員、事務局

内 容：検討会設立趣旨、全体スケジュールと検討事項、リン回収・活用に関する話題提供、フィージビリティスタディ

②第2回 下水道におけるリン資源化検討会の傍聴

開催日：平成22年1月28日（木）

場 所：（財）下水道新技術推進機構 会議室（東京都新宿区）

出席者：会員、事務局

内 容：フィージビリティスタディ、品質管理、資源化コスト、「手引き（案）」の構成

③第3回 下水道におけるリン資源化検討会の傍聴

開催日：平成22年3月11日（木）

場 所：（財）下水道新技術推進機構 会議室（東京都新宿区）

出席者：会員

内 容：フィージビリティスタディ（事業採算性調査）、下水道管理者と需要先との情報共有・調整のあり方、「手引き（案）」原稿の精査

5) 水の安全保障戦略機構との連携

チームとして参画している水の安全保障戦略機構の委員会等（執行審議会、基本戦略委員会、技術普及委員会、分野連携委員会等）に参加し情報収集を行うとともに、必要に応じて本協議会の活動状況の発信や提言、意見交換等を行った。

①第1回技術普及委員会・第1回分野連携委員会への出席

開催日：平成21年4月23日（木）

場 所：中央大学理工学部後楽園キャンパス3号館10階大会議室（東京都文京区）

出席者：事務局

内 容：行動チームの活動状況報告、技術普及委員会及び分野連携委員会検討課題と対応方針案、その他

②「衛生・資源循環」分野関連行動チーム会合への出席

開催日：平成21年7月8日（水）

場 所：いきいきプラザ一番町（東京都千代田区）

出席者：事務局

内 容：参加行動チームの紹介、意見交換、その他

③第2回基本戦略委員会への出席

開催日：平成21年7月17日（水）

場 所：中央大学理工学部後楽園キャンパス3号館10階大会議室（東京都文京区）

出席者：事務局

内 容：基本戦略の検討、行動チームの活動状況報告、新規行動チームの紹介、その他

- ④第2回技術普及委員会・第1回分野連携委員会への出席
開催日：平成21年8月5日（水）
場 所：中央大学理工学部後楽園キャンパス5号館5階5534会議室（東京都文京区）
出席者：事務局
内 容：「需給関係を含めた水関連物質循環促進方策」他2課題について、関連行動チームの連携による検討、行動チームが連携して行うこと、関係省庁・自治体への要望、その他
- ⑤「衛生・資源循環」分野関連行動チーム会合への出席
開催日：平成21年9月16日（水）
場 所：中央大学理工学部後楽園キャンパス3号館10階大会議室（東京都文京区）
出席者：事務局
内 容：省庁からの一次回答に対する行動チームとして意見集約、行動チーム（または連携した行動チーム）としての活動についての意見交換、その他
- ⑥第3回技術普及委員会・第1回分野連携委員会への出席
開催日：平成21年12月22日（水）
場 所：中央大学理工学部後楽園キャンパス3号館10階大会議室（東京都文京区）
出席者：事務局
内 容：「チーム水・日本」活動報告、水援助・水ビジネスの海外展開強化、行動チームの活動状況報告、新規行動チームの紹介、その他
- ⑦ポリシリカ鉄による水・資源循環システム推進チーム発足式への出席
開催日：平成21年6月8日（月）
場 所：主婦会館プラザエフ（東京都千代田区）
出席者：事務局
内 容：発足式、講演、その他
- ⑧NEDOウォーターソリューションへの参加
開催日：平成22年2月17日（水）～19日（金）
場 所：東京ビッグサイト 東6ホール（東京都江東区）
出席者：事務局
内 容：協議会紹介パネル展示（17～19日、3日間）
協議会の概要及び活動状況発表（19日）
- ⑨「衛生・資源循環」分野関連行動チームに関する打合せ（対応：事務局）
平成21年8月25日（火） 下水道グローバルセンター（社団法人日本下水道協会）
平成21年9月28日（月） 湖沼・ダム物質循環チーム
平成21年12月24日（木） 湖沼・ダム物質循環チーム
- ⑩チーム水・日本の提言に関する打合せ（対応：事務局）
平成22年2月9日（火） 水の安全保障戦略機構 事務局
平成22年3月4日（木） 水の安全保障戦略機構 事務局
平成22年3月30日（火） 水の安全保障戦略機構 事務局

5) その他関係機関等との連携

リン資源リサイクルに関する関係省庁や研究機関、関係機関等の情報を集約し、ホームページ等で共有化や活動の効率化を図った。

(2) 普及啓発事業

本事業は、リン資源リサイクル推進のための情報提供や情報交換等の普及啓発活動を行うものであり、平成 21 年度は以下の事業を実施した。

1) 第 1 回 リン資源リサイクルシンポジウム

開催日：平成 21 年 7 月 30 日（木）

場 所：東京ビッグサイト会議棟（東京都江東区）

出席者：関係省庁来賓、会員、一般、取材

合計：シンポジウム 198 名（来賓 14 名、講師 6 名、会員 117 名（事務局含む）、一般 53 名、取材 8 名）、意見交換・交流会：77 名（来賓 1 名、講師 5 名、会員 52 名（事務局含む）、一般 19 名）

内 容：リン資源回収技術に関するメーカーや自治体等からの事例発表と意見交換

2) 第 2 回 リン資源リサイクルシンポジウム

開催日：平成 21 年 11 月 20 日（金）

場 所：星陵会館（東京都千代田区永田町 2-16-2）

出席者：関係省庁来賓、会員、一般、取材

合計：シンポジウム 178 名（来賓 10 名、講師 4 名、会員 99 名（事務局含む）、一般 54 名、取材 11 名）、意見交換・交流会：63 名（講師 4 名、会員 46 名（事務局含む）、一般 13 名）

内 容：来賓（Dr. David A. Vaccari）による講演、回収リン利用技術に関するメーカーや自治体等からの事例発表と意見交換

3) 協議会メールニュースの配信

本協議会活動（会員動向、シンポジウム等の開催案内、事務連絡等）、リン資源リサイクルに係る関係省庁の施策や公募等の情報、関係機関の活動、リン資源リサイクルに関する会員、新聞、情報誌、WEB 等からの情報について、電子メールによる提供と共有を行った。

平成 21 年度は、合計 26 回（Vol. 11～Vol. 36）のメールニュースを配信した。

4) ホームページの運営

協議会事務局である（社）日本有機資源協会ホームページ内の協議会専用ページにおいて、入会案内、協議会案内、会員名簿、行事・イベント等の、本協議会活動の広報を主体としたホームページの運営を行った。

また、協議会事務局である（社）日本有機資源協会のホームページが、平成 21 年 12 月より会員等からの投稿が可能な方式になったため、その運用状況を見ながら協議会ホームページへの同方式への導入について検討を行った。

5) その他

報道関係者、一般等からの問い合わせ（協議会の概要や活動、会員等の紹介、入会手続き等）への対応を行った。

平成 21 年度の主な対応状況は次のとおりである。

○報道関係

- ・環境新聞（協議会活動状況等）
- ・北海道新聞東京支社（協議会活動状況等）
- ・環境情報（協議会活動状況、リン資源等）
- ・NHKラジオセンター（下水汚泥からのリン回収について）
- ・日本水道新聞社（協議会に関する執筆依頼）
- ・日本経済新聞社（リン資源リサイクルに関する新聞掲載企画）

○情報誌、調査関係

- ・農林水産省関東農政局（協議会に関する情報）
- ・サイエンス&テクノロジー（株）（会員の紹介、協議会に関する執筆依頼）
- ・（株）環境コミュニケーションズ（協議会活動状況、会員の紹介）
- ・（株）富士経済（リン資源回収事例）

（4）業務支援事業

本事業は、リン資源リサイクルに関する事業や研究等に関連する会員等からの要請、要望あるいは問合せ等を受けて、その業務を合理的かつ円滑に執行するための支援を行うものであり、平成 21 年度は以下の事業を実施した。

1) リン資源リサイクルに関する支援

会員等からの要請や問合せを受けて、情報及び資料提供、面談指導、役職員等の派遣等を行った。平成 21 年度の主な支援内容は次のとおりである。

- ・ひろしま環境ビジネス研究会への支援（面談指導、役職員の派遣）
- ・肥料価格、リン鉱石価格等の情報提供及び面談指導
- ・リン資源回収の事業化や補助事業等に関する情報提供及び面談指導
- ・会員等が開催するシンポジウム、講演会等への講師派遣及び役職員の出席
- ・会員の紹介

2) その他

関係省庁や連携機関、会員等からの問い合わせへの対応を行った。

